

『平成26年度 現場研修会（十勝）』報告

1. はじめに

道東の現場研修会を検討していた所、高堂様と加藤様のご協力で研修計画が決定、バス移動も多いので車内での研修も追加し、開催しました。（札幌駅発～帯広駅経由～糠平湖へ）

2. 研修概要

研修日時：平成26年9月18日（木）

研修先と講師：

* 十勝大橋の歴史（追加、車内）

講師：高堂 匠美 氏（高堂建設 株式会社）

①十勝地域の概要と社会資本整備（車内）

講師：菅 睦三 幹事

②糠平ダム（車内）

講師：高堂 匠美 氏（前掲）

③国道トンネル補修工事

講師：加藤 茂樹 氏（加藤建設 株式会社）

④タウシュベツ川橋梁

講師：河田 充氏

（NPO法人 ひがし大雪自然ガイドセンター）

参加者：17名

3. 研修報告

* 十勝大橋の歴史（追加、車内）

③の現場に向かう途中にあり、資料にも十勝大橋の歴史を用意していたので、車窓より見学しながら十勝大橋の歴史について説明をして頂きました。帯広側の橋台横に旧橋の橋台が残されています。



写真1 旧十勝大橋の橋台と説明状況

① 十勝地域の概要と社会資本整備（車内）

車内研修として、十勝地域の歴史と産業、社会資本整備の状況と維持管理について説明がありました。

「農業農村整備」として排水路の整備が進められ、護岸として連結ブロックや積ブロックが多用されています。凍害劣化や摩耗劣化などの劣化も生じていることもあり、排水路の機能診断や個別の劣化状況に対応する対策工法の考え方について説明が行われました。



写真2 社会資本整備(資料)と説明状況

② 糠平ダム（車内）

今回は研修時間が足りないので、予め資料を用意して糠平ダムの概要を説明し、堤体前の糠平大橋上で徐行して車窓から見学としました。

糠平ダムは、音更川と糠平川の合流部をせき止めた、発電用の重力式コンクリートダムで1956年に完成しました。高さは76m、堤頂長は293mあり、ダムにより形成された糠平湖は周囲33km、最深部60mの大人造湖で、北側にはタウシュベツ橋梁があります。



写真3 糠平ダムと説明状況

③ 国道トンネル補修工事

現場名は「一般国道273号上士幌町不二川トンネル補修外一連工事」、発注者は北海道開発局帯広開発建設部です。

まず現場事務所前にて、工事概要(覆工背面空洞への裏込め注入など)と補修に使用する注入材(可塑性モルタル)の説明がありました。

補修材料の選定では、覆工背面の漏水に対し材料分離が生じにくいこと、狭い空洞に対しても充填できる流動性を有すること、などの条件で検討したそうです。可塑性モルタルの製造方法の実演と品質管理の説明が行われました。



写真4 モルタル作成状況と品質管理状況

補修工事中である「ぬかびら湖畔トンネル」にバスで移動し、説明を受けました。

覆工コンクリートは、トンネル健全度評価により5年ごとに点検を行っています。このトンネルは昭和56年に竣工し34年が経過しています。前回のトンネル点検はH20年で、浮きでB+、B判定の場所は全てネット工法による応急対策を施しています。

今回の補修工事では、恒久対策としてレーダー探査とCCDカメラで背面空洞を確認し、裏込め注入で地山と覆工を密着させてトンネルの安全性を向上させるそうです。



写真5 ぬかびら湖畔トンネル補修現場

④ タウシュベツ川橋梁

地元のガイドツアーに参加し、「タウシュベツ川橋梁」の研修を行いました。旧国鉄士幌線アーチ橋梁群の1つで、1937年に建設された全長130mのアーチ橋です。糠平ダム建設により水没するため士幌線を変更、1955年より放置され解体予定でしたが1997年に保存が決定、2001年の北海道遺産の選定などで有名になりました。

専用バスで林道を進み、旧士幌線の線路跡を徒歩で5分ほど進むと橋梁があります。夏の水没と冬の凍害により、他のアーチ橋よりも10倍以上で劣化しており、いつ崩れてもおかしくない状態にあるそうです。



写真6 線路跡(徒歩)と研修状況



写真7 老朽化が進むタウシュベツ川橋梁

4. 終わりに

講師と現場の方々、参加者皆様のご協力により、予定通りかつ安全に研修を終えることができました。ありがとうございます。



写真8 ぬかびら湖畔トンネル坑口前にて

(文責: 神田貴尚)